

## 北海道佐呂間町で発生した竜巻被害に関する現地調査



水・土砂防災研究部 研究員 前坂 剛

平成18年11月7日に北海道佐呂間町で発生した竜巻は、竜巻の空白域と呼ばれるオホーツク海側で発生し、誰もが予想しえない甚大な被害（死者9名、重軽傷者26名、住家被害37棟）をもたらしました。防災科研では建物の被害状況の把握や気象関連の目撃情報のヒアリングを目的とした5名の調査団を結成し、11月13・14日に現地調査を行いました。（箕輪親宏：建築工学・団長、佐藤照子：災害地理学、関口宏二：土木工学・地盤工学、前坂剛：メソ気象学、清水慎吾：メソ気象学）

調査時は竜巻発生から1週間がたち、その痕跡が徐々に失われつつある状態ではありましたが、建物の被害状況を詳しく調査することができました。また、現地の人々も平

穏を取り戻しつつある状態で、懇切丁寧にはアリングに応じていただきました。特に、竜巻渦の目撃情報は、竜巻の発生・発達・消失過程の調査において大変有用な情報でした。

本調査にあたり、佐呂間町役場関係者、鹿島ジョイントベンチャー、住民の皆様にはお忙しい中ご協力いただきました。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。なお、今回の調査の詳細は当研究所のWebページ（<http://www.bosai.go.jp>）でご覧いただけます。



写真1 竜巻の被害を受けた佐呂間町若佐地区。矢印は竜巻の移動経路。竜巻は写真左側の畑地で急激に発達し、集落の中を通り過ぎていきました。



写真2 竜巻により全壊した鹿島ジョイントベンチャーのプレハブ建物跡地